

個人投資家向け会社説明会資料

～女性を元気にする会社～

常務取締役営業担当 井上 則子

代表取締役社長 靱山 邦男



JCL bioassay



代表取締役社長 靱山邦男



常務取締役営業担当 井上則子

会社概要

事業内容(CROとは)

受託試験概要

JCLの強み

女性を元気にする理由

米国進出

会社名	株式会社 JCL バイオアッセイ
本社	大阪府豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル
設立	2005年4月
事業内容	医薬品開発受託試験研究業務
代表者	代表取締役社長 靱山邦男
証券コード	2190
発行済株式総数	3,306,000株
決算期	3月31日
資本金	256,356千円
社員数	149名(2009年9月末現在)
子会社	JCL Bioassay USA, Inc.

経営ビジョン

分析CROとして世界の頂点を目指す

経営理念と行動規範

「科学は公共の利益に寄与するものでなければならない」という信条を理念の座標軸とし、私たちは科学に携わるものとして、次の行動規範を遵守する

1. 商道徳に反するようなことはしない。
2. 研究者の良心に恥じるような行為はしない。
3. 人道にもとるようなことはしない。
4. 専門職としての自覚を持ち、完全主義者の情熱を持って技能を磨き、医薬品開発の質の向上とスピードアップに貢献する。

2005年4月	会社分割により株式会社JCLバイオアッセイ設立 JCL Bioassay Inc.を子会社として継承。
2007年12月	米国子会社JCL Bioassay Inc.清算 米国進出のための市場調査終了。
2008年4月	米国子会社JCL Bioassay USA, Inc.設立 米国ラボ開設に向けて、新会社設立。
2009年3月	大阪証券取引所ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」に上場 米国ラボ建設費用のうち、約4億円を調達。

拠点

JCL bioassay

本社 大阪府豊中市



米国ラボ イリノイ州



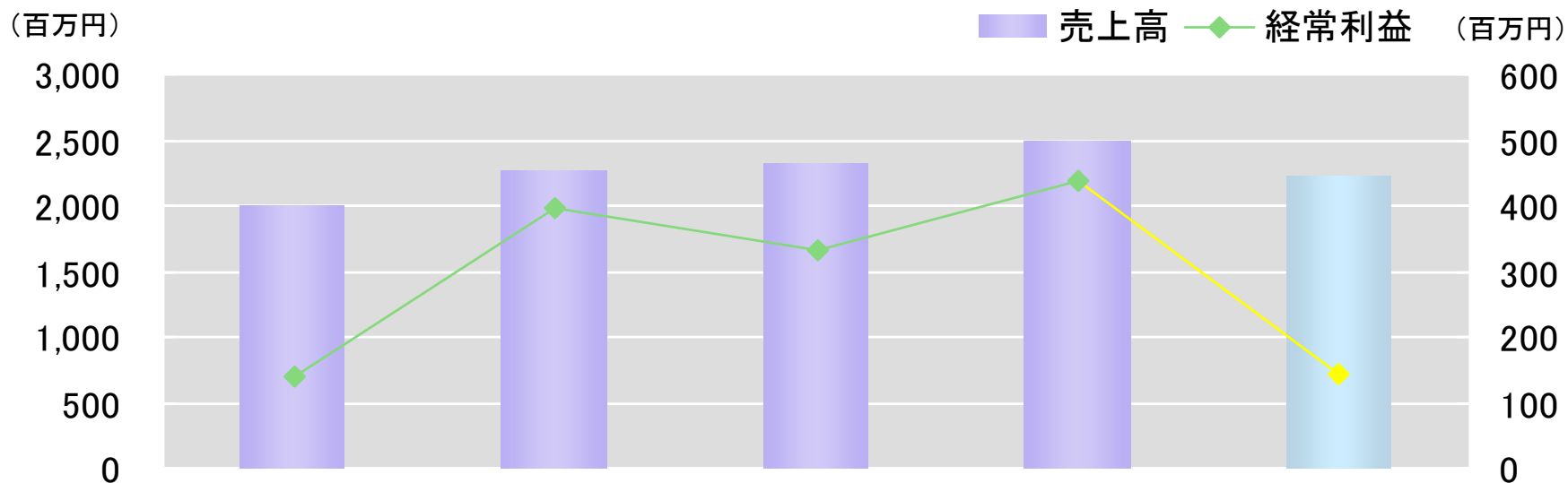
大阪ラボ 大阪府吹田市



西脇ラボ 兵庫県西脇市



売上高・経常利益の推移(連結)



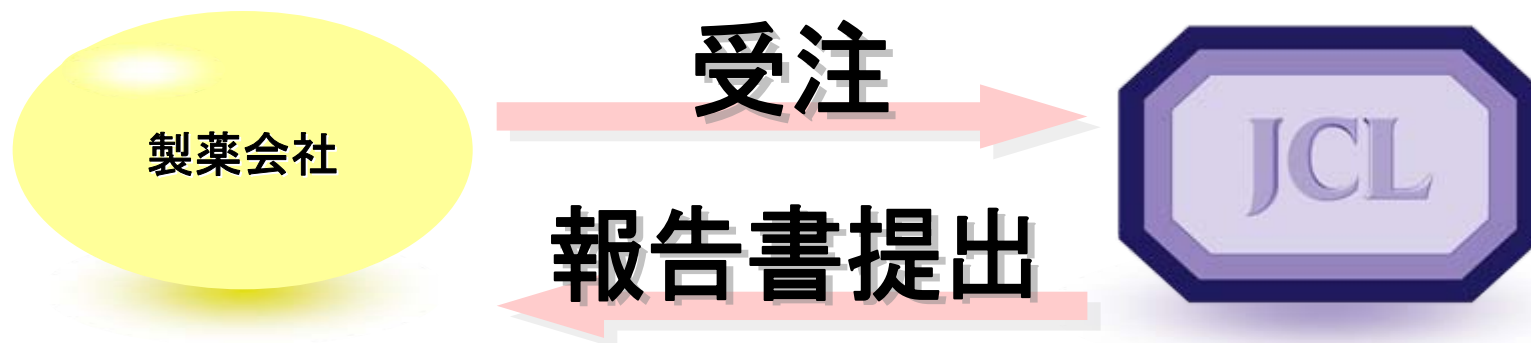
	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期
売上高	1,994	2,260	2,326	2,488	2,220
経常利益	140	397	330	437	145

※2010年3月期は予想です。

事業内容(CROとは)

JCL bioassay

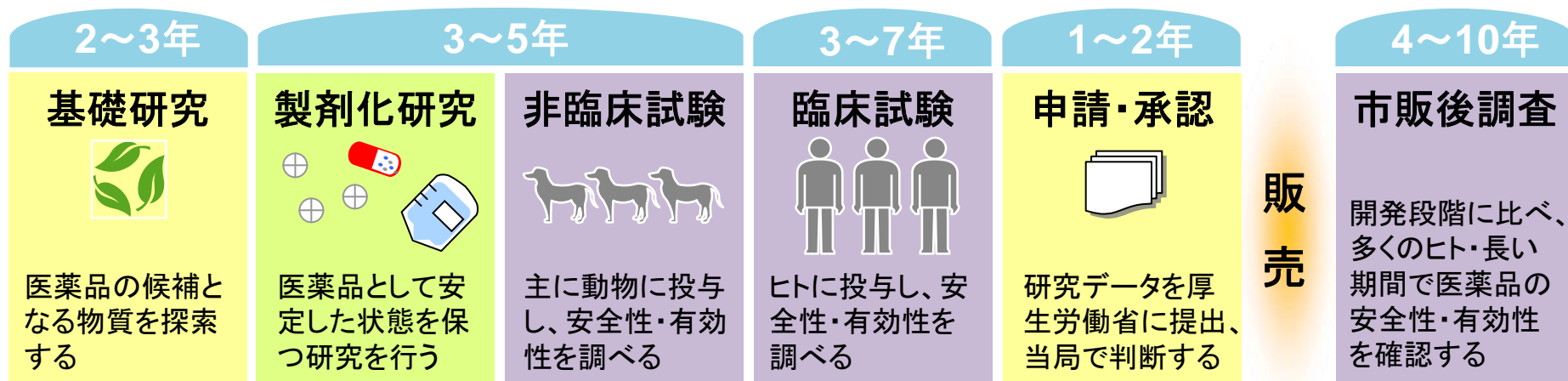
医薬品の開発段階で必要な試験を製薬会社から受託



主な受託試験

バイオアナリシス
(生体試料中薬物濃度測定)

医薬品品質安定性試験



- 新薬の開発期間は10~20年
- 候補化合物から実際に医薬品として販売される確率は約10,000分の1

医薬品の開発には多大な研究開発費と時間がかかる

CRO

製薬会社の新しい薬を作り出すためのさまざまな業務を代行

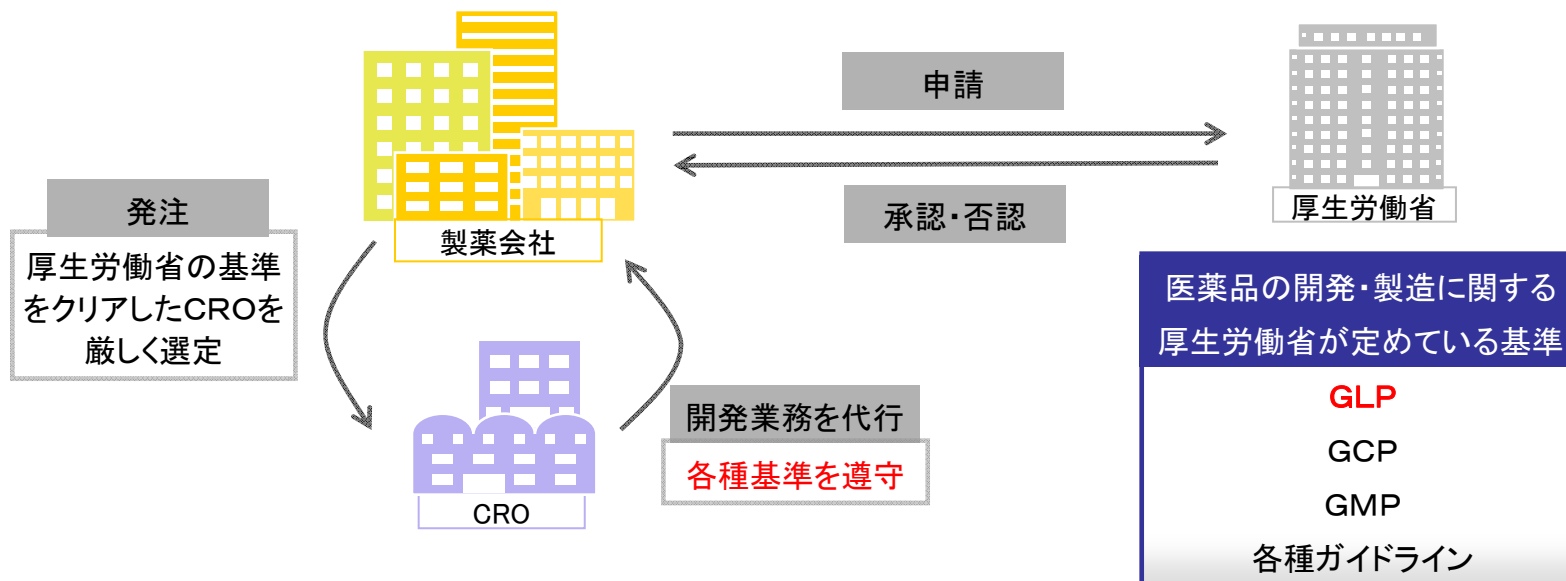
スピード化

経費節減

質の向上

人件費・維持費の
効率化

CROには高い倫理観と正確さが求められる



2010年問題

主要医薬品が2010年から一斉に特許切れ



- 新薬市場
新たな医薬品の開発
- ジェネリック市場
特許切れと同時にジェネリック医薬品を販売

候補物質の増加

IT・バイオ技術により候補物質が増加


CRO市場は拡大傾向

他のCROとの事業領域の違い

分析系CRO

バイオアナリシス

医薬品品質
安定性試験



Laboratory



非臨床試験・臨床試験・製造販売後調査における分析業務を代行・サポート

生物系CRO

安全性(毒性)試験




Laboratory

非臨床試験における安全性試験を代行・サポート


臨床CRO

モニタリング



治験者

コンサルティング



病院

データマネジメント

メディカルライティング

臨床試験・製造販売後調査におけるさまざまな業務を代行・サポート

当社は分析系のCROである

受託試験概要

- バイオアナリシス
- 医薬品品質安定性試験

JCL bioassay

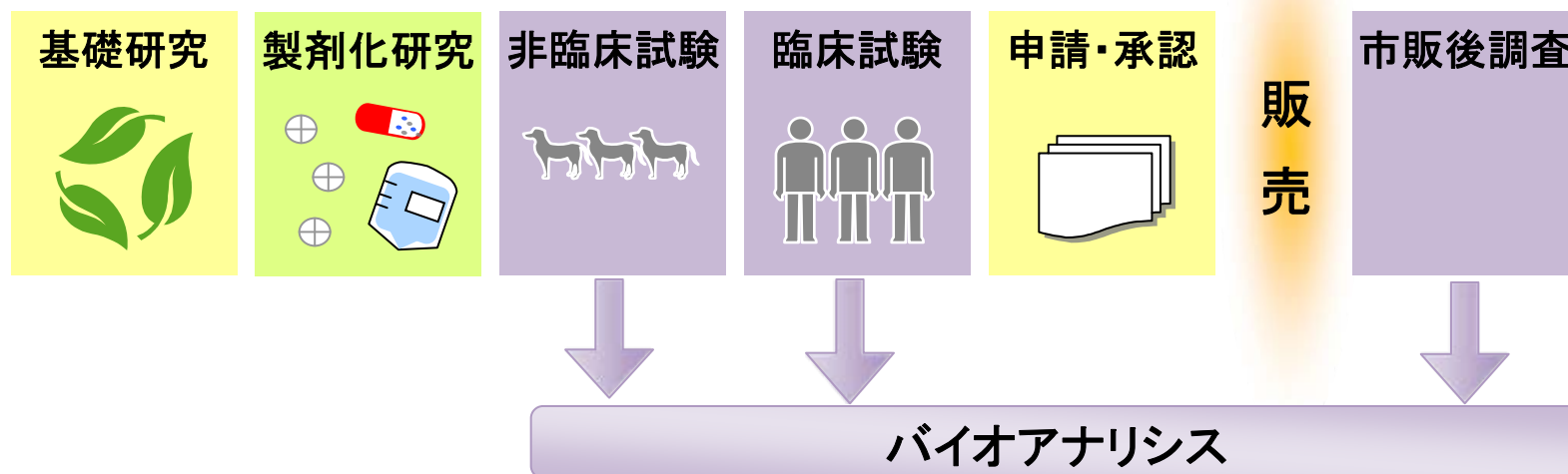
バイオアナリシスとは

医薬品を投与した動物やヒトのサンプル(主に血液や尿)中の薬物濃度を測定する試験

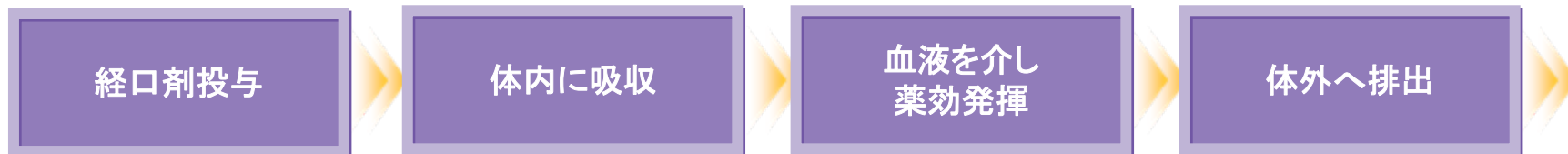
薬効

安全性

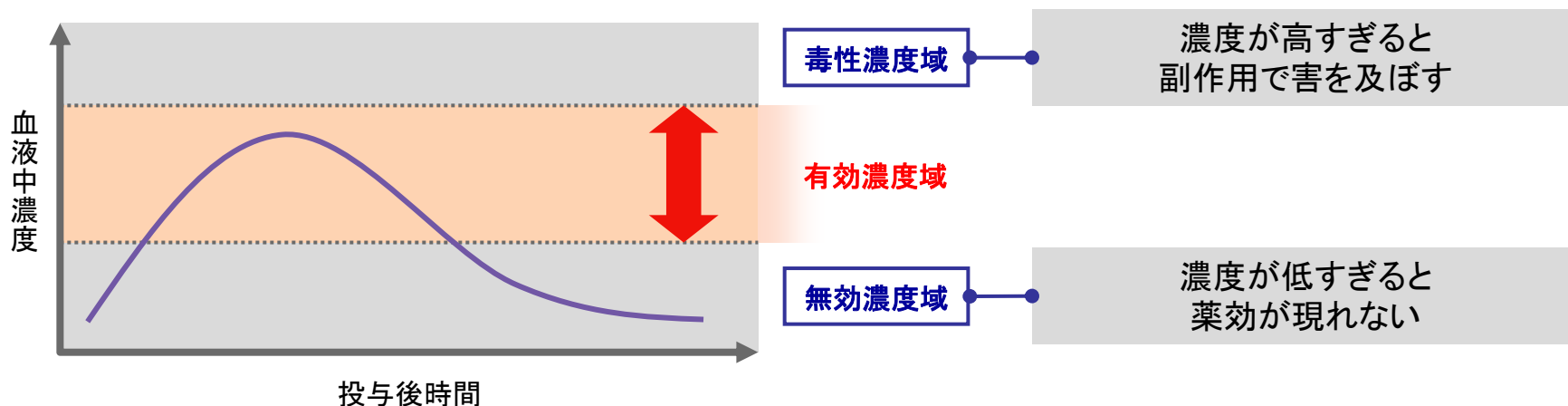
創薬の流れと当社の事業領域



経口剤の薬効



薬効は薬物の血液中濃度に依存する



バイオアナリシスは新薬開発において薬効や毒性を科学的に評価する試験である

バイオアナリシスの流れ

JCL bioassay



分析法バリデーション試験



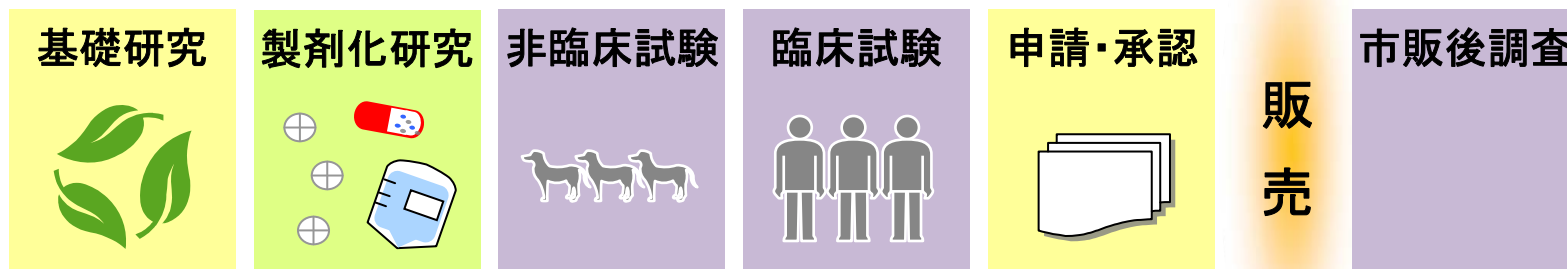
※分析法バリデーション試験では、本試験の分析方法を開発します。

株式会社 JCLバイオアッセイ

医薬品品質安定性試験とは

原薬や製剤の品質や安定性を保証するための試験

創薬の流れと当社の事業領域

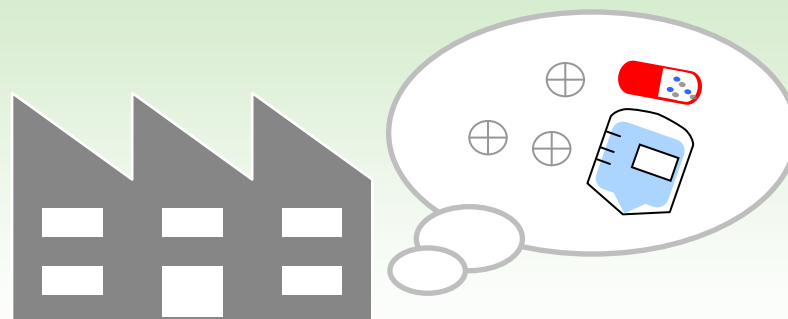


医薬品品質安定性試験

医薬品品質安定性試験は
ジェネリック医薬品の引き合いも多い

品質試験

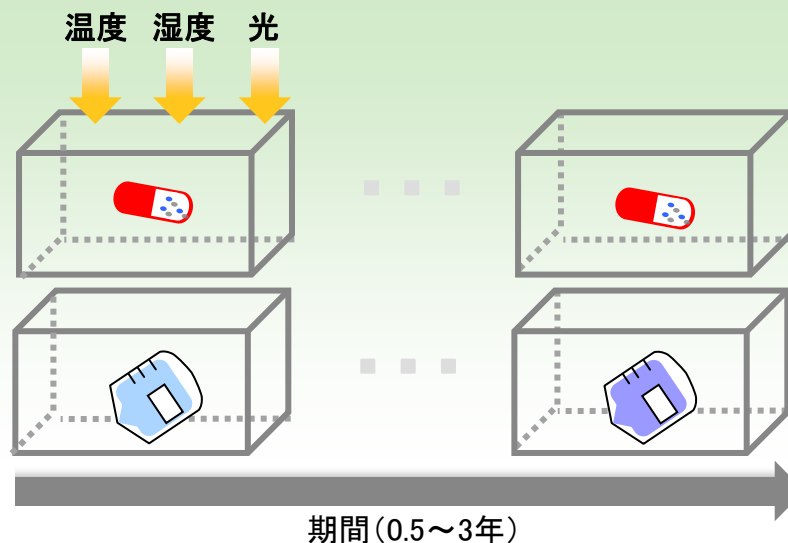
原薬・製剤の品質
(薬効成分の含量、不純物の含量等)を
保証する試験



製薬会社の工場

保存安定性試験

原薬・製剤の品質が
温度・湿度・光等の影響下でも、
長期間にわたり保持されるかを
評価する試験



医薬品品質安定性試験の流れ



分析法バリデーション試験

本試験

製薬会社から要求された条件により、多様な機器を用いて試験を実施



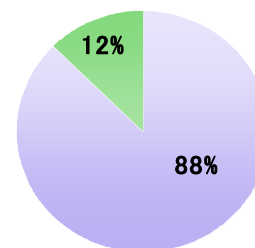
試験データを保管

受託試験別売上高

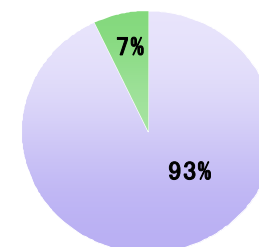
2009年3月期 試験別の売上高・粗利

	売上高	粗利	粗利率
バイオアナリシス	2,180	888	40.8%
医薬品品質安定性試験	308	65	21.2%

売上高

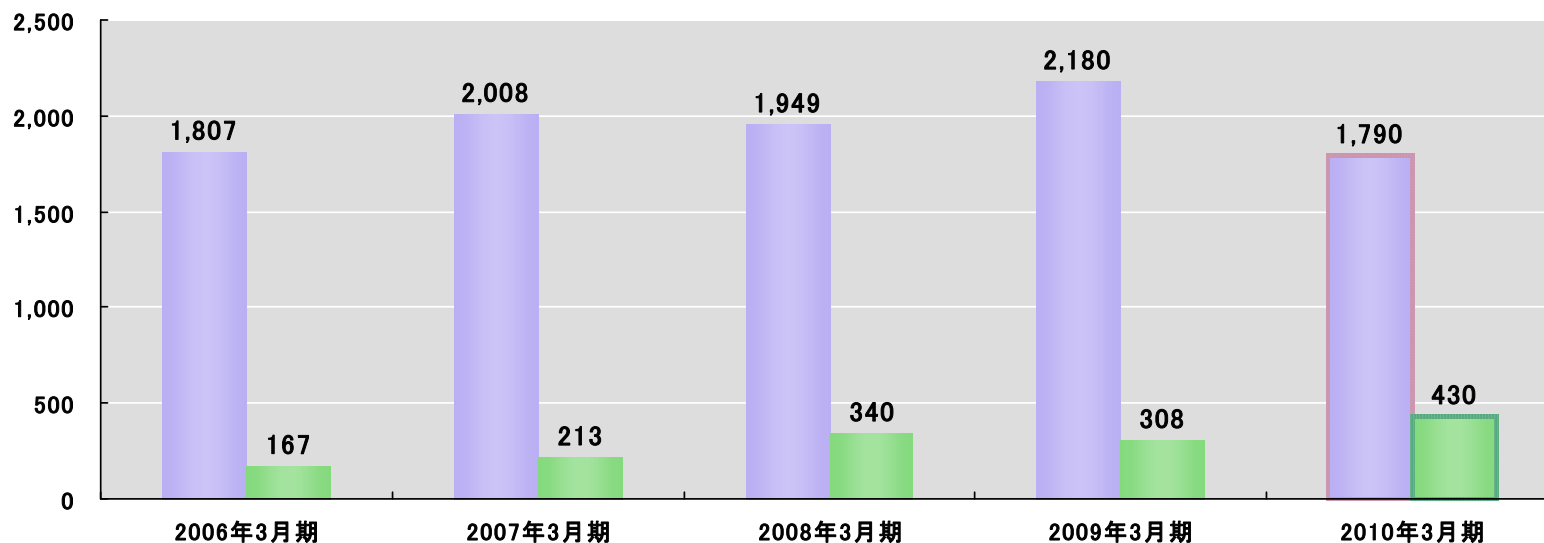


粗利



試験別・売上高の推移

(百万円)



※2010年3月期は予想です。

JCLの強み

JCL bioassay

グッド・ニッチの市場

- 大規模な設備投資が必要となる。
- 市場規模は日本国内で90億円と推定され、大手の参入ターゲットとなりにくい。



人材育成

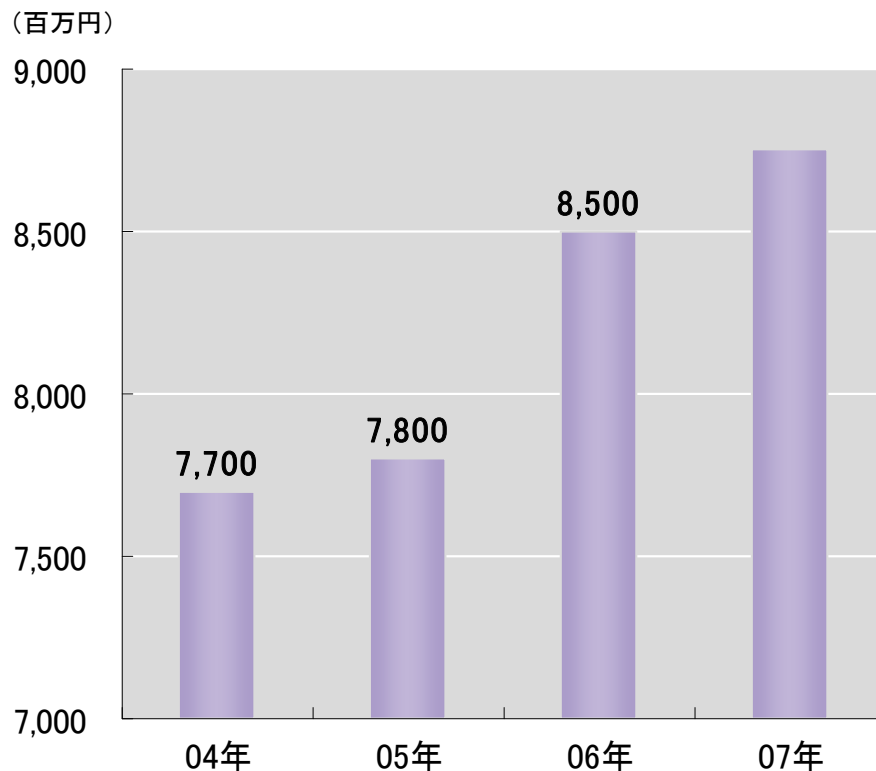
- 高度な分析力を持つ研究員の育成には、時間がかかる。
- GLP対応に相当のマンパワーを要する。

GLP: Good Laboratory Practice

当社の主な事業領域である国内バイオアナリシスは、
グッド・ニッチの市場である

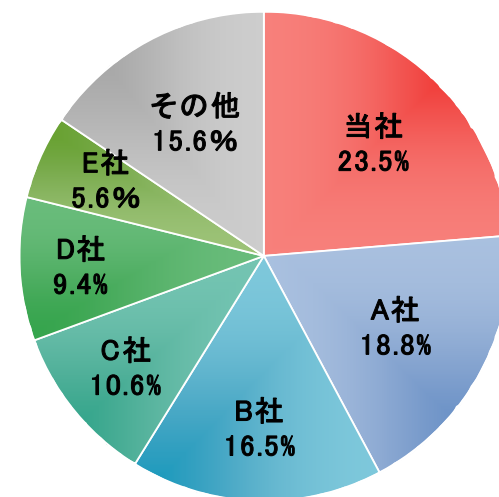
バイオアナリシス市場と当社の位置

国内市場規模推移



(東京創研 2007年調査より当社作成)

国内シェア



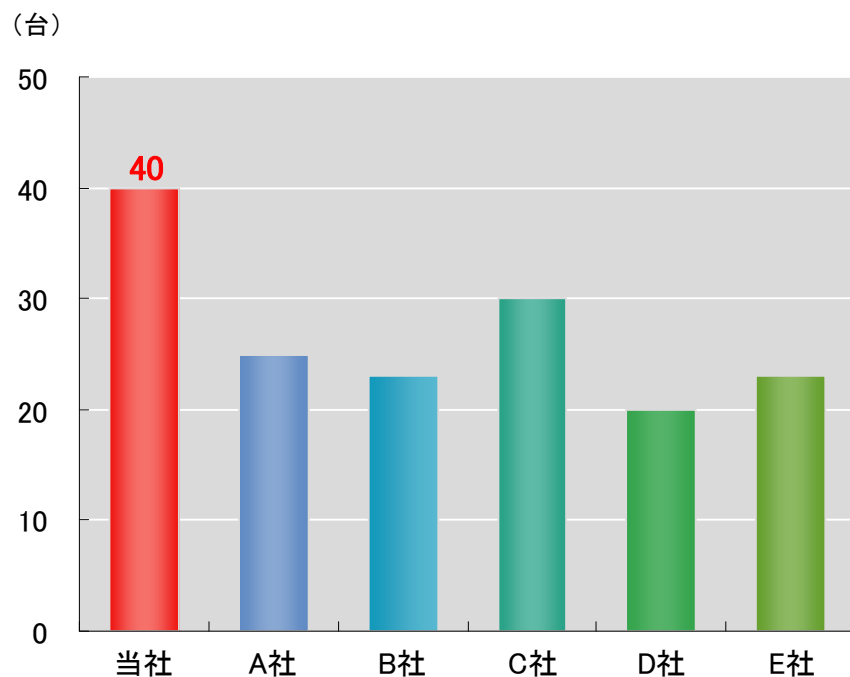
(07/3実績)

国内バイオアナリシス市場は拡大してきたが、その中で当社はトップシェアを誇る

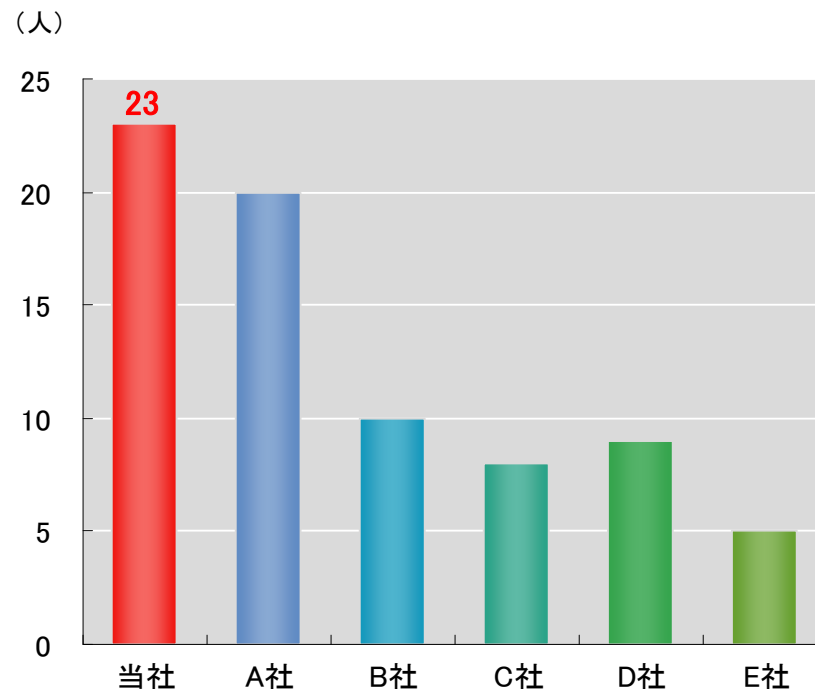
※上記はアウトソーシングされているものだけを集計した市場規模です。

バイオアナリシス分析体制比較

LC-MS/MS保有台数



試験責任者数



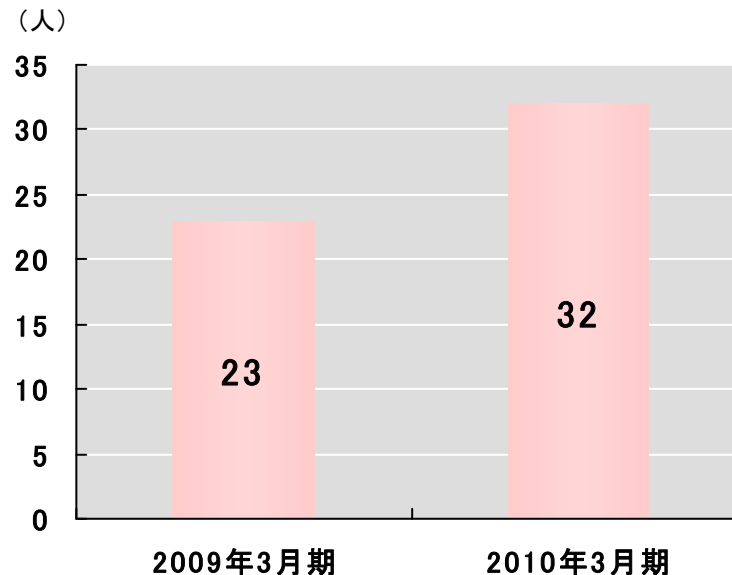
(東京創研 2007年調査より当社作成)

高感度分析装置と試験責任者の数は、業界で最も充実している

試験責任者の育成

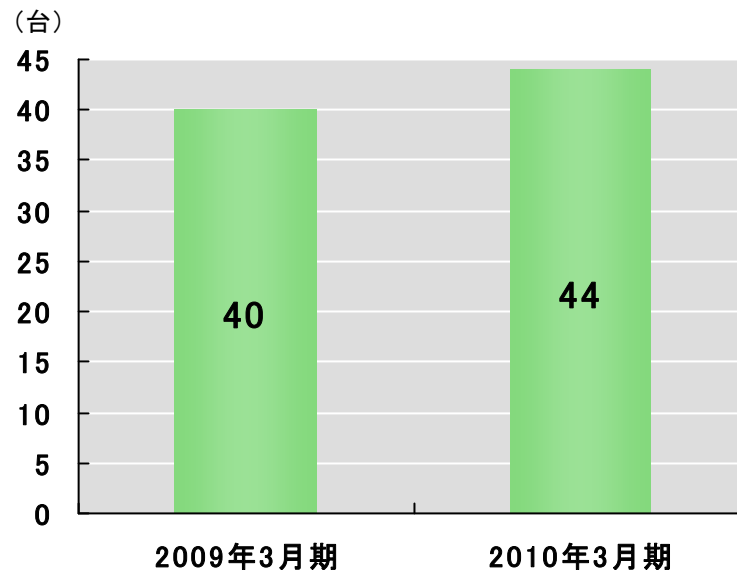
- より多くの試験数を実施でき、製薬会社が要求するスケジュールに対応できる

充実した教育体制
(各ラボでの定例勉強会、チーム勉強会)



質量分析装置を増設

- さまざまな装置でスポンサーの要望に対応
- より高感度な分析が可能に (より微量のサンプルで分析できる)



女性を元気にする理由

JCL bioassay

性別による差のない正当な評価・チャンス

優秀な女性が活躍している実績

定着のための環境整備

優秀な女性が集まりやすく、育ちやすい社風

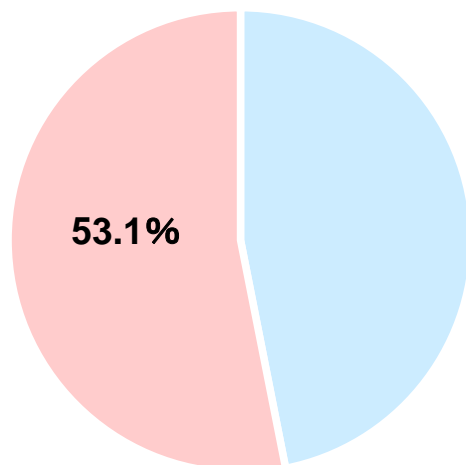
ラボ職員には同等の教育(研修・学会参加、発表機会)

性別・年齢に関係なく、仕事の内容・実績を正當に評価



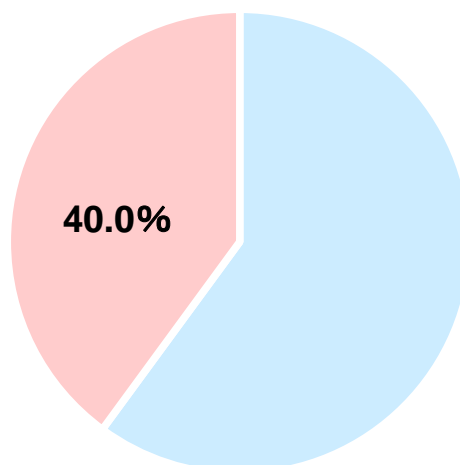
平等にチャレンジの機会が与えられている

試験責任者(SD)男女比

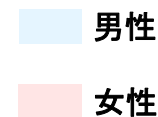


17人/32人

主席・主任研究員男女比



4人/10人



活躍している女性たち

取締役のうち2名が女性

代表取締役社長 靱山 邦男

常務取締役営業担当 井上 則子

取締役研究本部長 村井 久美

管理担当取締役 久保 明

取締役経営企画室長 田中 雅樹

男性 女性

新規事業を開発する研究開発部門長は女性

マイクロドーズ試験のLC-MS/MS分析を実現
(化学分析課主任研究員・女性)

子会社の執行役員4名のうち2名が女性



研究所内託児所の設置



育児休暇取得率

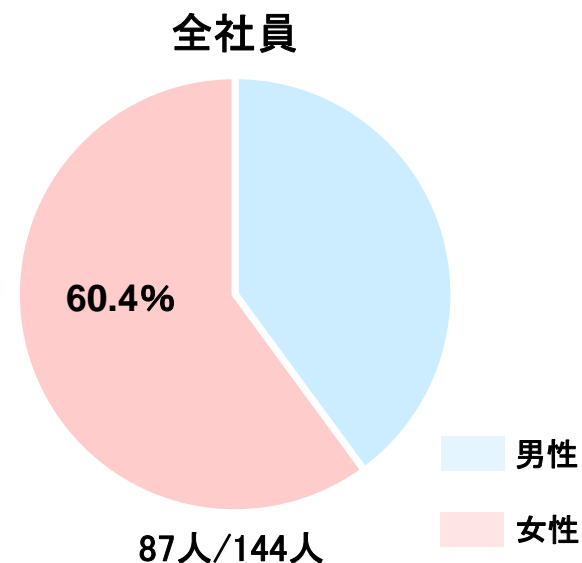
100%

出産後の復職率

83.3%



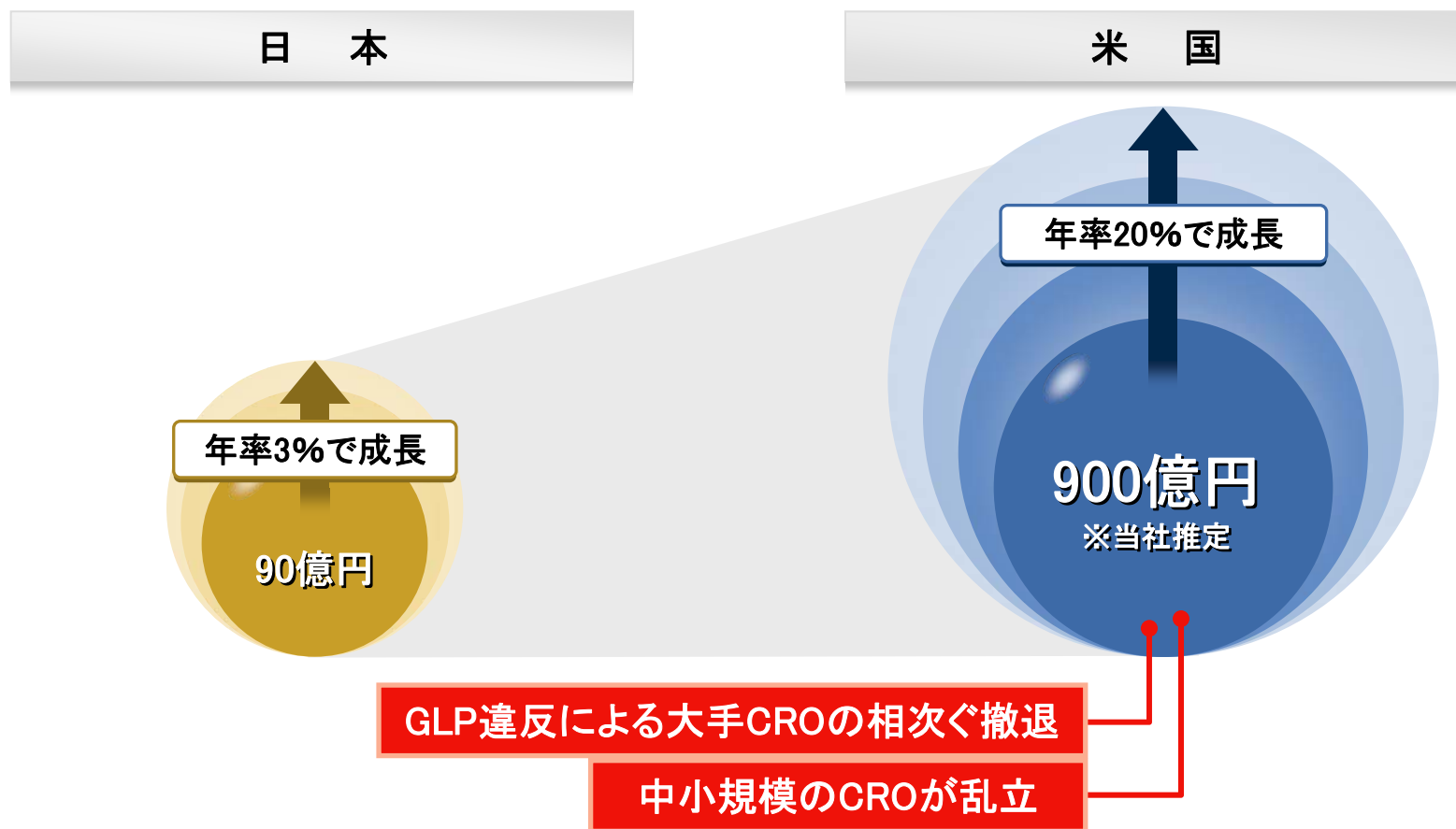
女性が集まりやすい会社に



米国進出

JCL bioassay

バイオアナリシス市場の成長性



米国では信頼性の高いバイオアナリシス委託先の需要が高まっている

米国ラボ計画

JCL bioassay

米国ラボ建設状況



米国進出の過程と今後の計画

- 2008年 JCL Bioassay USA, Inc.を設立
ラボ建設用地をイリノイ州に購入
- 2009年4月 着工
- 2010年2月 竣工
機器の搬入開始
- 2010年秋 受託開始

資金計画

上場調達資金(4億円) + 借入金

完成予定図

敷地面積: 20,436㎡
建物総面積: 2,059㎡

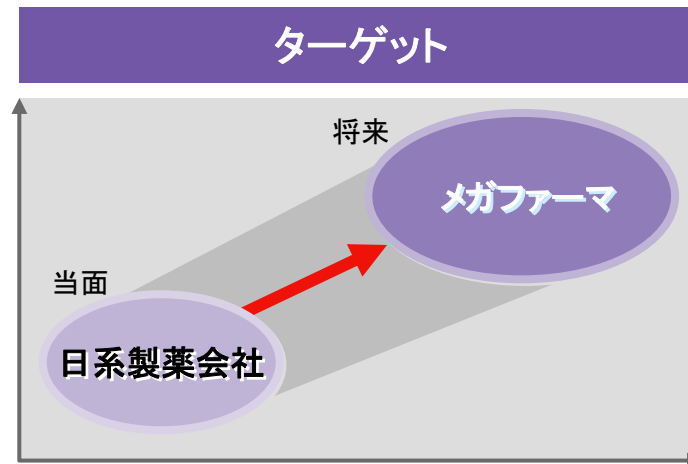
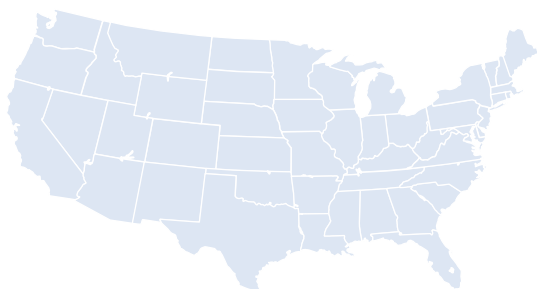


進出計画

- 進出時は日本より熟練研究員を派遣
- 西脇ラボに相当する処理能力へ

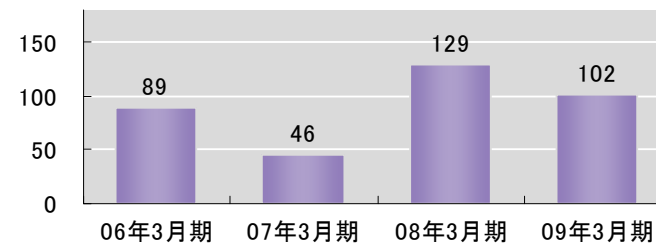
課題

- 優秀な研究員の獲得、育成による日本と同等のサービスの提供
- 超大型試験への品質・価格対応力



米国からの受託実績

(百万円)



早期の黒字化、フル稼働を目指す

バイオアナリシスで世界の頂点を目指す JCL bioassay

JCL bioassay

難易度の高い試験にも対応

試験結果の正確性

スピード

品質の高さ

Advancing the Quality of Bioanalysis Worldwide

本資料に関するお問い合わせ先



株式会社

JCL バイオアッセイ

経営企画室

TEL: 06-4863-5020

FAX: 06-4863-5021

ホームページ: <http://www.jclbio.com>

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスク及び不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。